

伊丹市議会議員 **おおつる 求** の活動報告

みんなちがって、 みんないい



学びの保障へ大きな一歩、今年4月から

尼崎市の夜間中学へ伊丹市民も通学可能に！

希望者が通いやすい環境整備を早急に

夜間中学校である尼崎市立成良中学校琴城分校は、尼崎市在住・在勤者が入学対象だったが、4月から阪神6市1町に住む市民も通えるようになった。とても画期的なこと。

市民への周知・啓発と、通学希望者が通学しやすい環境を整える必要があると考え、市議会で質問した。

周知されていないところに、ニーズは無い

夜間中学対象者を市は把握していない。学びの機会が必要な方へ、どのように広報・周知するかが大きな課題だ。また、対象者自身にも多様な不安があり、夜間中学入学へのハードルは高い、といわれる。

市は、やさしい日本語でホームページに案内を掲載すると共に、視覚に訴えるチラシの作成を兵庫県に要望する。また教職員・国際交流課・人権啓発センターとの連携や、地域包括支援センターなど地域支援を担っている方々の力を借りて、必要な方へ情報が届くよう努める。

夜間中学とは

戦後混乱期に、義務教育を受けられなかった方の受け皿として設置された。

今では、不登校などにより、十分な教育を受けられなかった方の「学び直し」の機会や、義務教育に相当する教育が未終了である外国籍市民の「生きていく学びの保障」として重要な役割を担っている。

2021年4月時点で全国に36校設置され、兵庫県内には神戸(2校)と尼崎にある。23年には姫路に開校予定。



財政的なバックアップで 通学しやすい環境整備を

一方、夜間中学を3年で卒業することは、現実的に容易ではない。そのため琴城分校では在籍の上限年限を概ね9年としている。ただ経済的理由で就学が困難な方への就学助成制度は、3年間が限度になっているのが現状。

夜間中学は義務教育であることから、在学中は就学助成対象にすべきであり、交通費助成も含め、早急に環境整備するよう市に要望した。

個人質問 報告

6月議会では、夜間中学を含め3つのテーマを質問。
残り2つの質問要旨をご報告。

現場の声を反映させ、教育行政を進める大切さ

大阪市長は、4月の緊急事態宣言を前に、宣言中の市立小中学校は、「自宅オンライン学習が基本」と突如表明した。ただハード面未整備に加え、オンライン学習準備も不十分、操作を知らない子など、学校現場は大混乱。「子どもの安全・安心」も、「学ぶ権利」も、どちらも保障されなかった。

この事態に対し、木下教育長は「操作スキルをはじめ、指導技術などが伴っていない現状から、教育現場からすれば【子どもの学習権を保障することは難しい】と考えるのは当然のこと」との認識を示した。

続けて、「教育委員会の役割は、現場の教職員が意欲をもって働ける環境を整えることである。本市教育活動推進について、市長が一方向的に決定することは無く、教育委員会と十分協議して決定している」と答弁した。



↑ 現職校長が大阪市長へ、教育行政の提言書を提出した事態を報道する新聞。

場当たりの対応に従った大阪市教委の存在意義とは？ 被害者は“子ども”だ。

市は保育所4月入所申請の「2次募集」をすべきでは



毎年、複数の民間保育所を誘致して入所定員を増やし、4月1日現在、「5年連続保育所待機児童ゼロ」を達成した本市。素晴らしいことだと思う。

ただ、待機保留児童（隠れ待機）は、毎年増え続けている。また4月入所を希望する場合、前年12月上旬迄の申請が必要であり、過ぎると3月まで申請が出来ず、自動的に「5月以降」入所となるルールになっている。

一方、今年4月1日、保育所やこども園など市内43施設の認可園のうち、13施設(194名)に定員の「空き」があった。5月に一定数の子が入所しており、他市同様、4月入所申請の「2次募集」を行い、少しでも多くの子が、4月1日から入園できるようにルール変更すべきだ、と考える。

「2次募集」すると、「6年連続待機児童ゼロ」が達成できない可能性もある。ただ「待機ゼロ」は目標であり、「目的」になっては本末転倒だ。

1人でも多くの保育需要に応えるべき、との要望に、市は「検討する」と答弁した。大いに期待したい。

	定員増	待機保留	5月入所
2017年	114人	13人	74人
2018年	72人	38人	42人
2019年	214人	93人	25人
2020年	259人	125人	36人
2021年	96人	151人	40人

年度別の数字。前年度比の保育定員増加数、4月1日の待機保留数、5月入所した児童数。

6月議会 アレコレ

6月議会は、代表質問・個人質問あわせて25名が質問に立った。
その中で、ちょっと気になるテーマをピックアップしてご報告。

伊丹市の気候変動対策は

気候変動対策が差し迫った課題であることは、世界共通の認識だ。
本市は森林資源に乏しいことから、二酸化炭素排出量を相殺できるだけの吸収量を確保するのは困難。そこで太陽光発電施設の普及拡大や、再生可能エネルギー比率の高い電気への切換え促進などの方法で、排出量を可能な限り低減させ、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロを目指す。



弁当か給食か、検討は続く

市長は「長期休暇に、放課後児童くらぶに通う子へ給食・配食」を公約に、5回目の当選を果たした。検討が始まったが、それぞれ課題が悩ましい。

- 配食・・・対応可能な業者選定。子どもの需要に合う品質の確保。
- 給食・・・長期休暇に行う機材等のメンテナンス対応。1食のコストが高額。全国的に見ても実施している自治体は少ない。スケジュールはまだ未定だ。

不登校児童・生徒へ、きめ細かい支援を

コロナ禍の影響もあり、昨年度の不登校児童・生徒数は、小学校で前年度比21名増の109名、中学校では69名増の207名だった。学校では、定期的な家庭訪問による家庭学習支援や、別室・放課後登校、教育支援センター「やまびこ」利用など、子どもの状況に合わせた支援をおこなっている。
また保護者の申し出に応じ、学校長が有効・適切と判断した場合に限り、自宅でのICT（情報通信技術）を活用した学習を出席扱いにして、成果を評価に反映するなど、継続的な学習の機会を保障している。



近中跡地、民間病院誘致に向けて

近畿中央病院（近中）との統合新病院が、現在の伊丹病院敷地内に建設されるため、近中跡地へ民間病院誘致を望む声が多い。
市は基本方針の中で「回復期機能を有する医療機関の誘致等、必要とされる病床機能の確保に努める」としている。
民間医療機関への跡地売却に向けた検討を進めていくことを基本的な合意事項とする「覚書」締結に向けて、市は所有者である公立学校共済組合と協議を進めている。

芸術・文化と財政 アイホール活用問題

1988年に開館した伊丹市立演劇ホール(通称;アイホール)は、演劇公演事業や講座、出張演劇ワークショップなど、幅広い世代に舞台芸術の魅力を伝え続けている。

2005年には、アーティスト育成を標榜・実践したことが評価され、芸術環境づくりに功績のあった公立文化施設を顕彰する「第1回 JAFRA アワード(総務大臣賞)」受賞。また、「2014年度文化庁芸術祭賞優秀賞」を受賞する等、全国的にも高い評価を得ている。

一方、老朽化のため大規模改修工事が必要になるのを機に、市は「演劇にこだわらない施設活用」の市場調査(サウンディング)を始めた。年間運営費(約9千万円)削減を目指し、民間事業者への建物賃貸借も視野に可能性を探る、という。

演劇ホールを無くしてもいいのか。演劇文化は他施設で継続可能なのか。しっかりと考えていきたい。



30年ほど前、市が打ち出していた「劇場都市伊丹」。アイホールは、その象徴的な建物だ。

統合新病院 お金の話

▶現時点での事業費は、約437億円。全額を伊丹病院会計の起債(借金)で賄い、市は一定割合(約253億円)を、2055年まで分割で支払う計画。

▶ただ、高度急性期機能の充実等による効率的な病院運営や、国の有利な財源確保により、市が実際に負担する総額は約171億円と見込む。

市政に対するご意見や疑問、お聞かせください。
困ったこと、悩んでいること、一緒に考えましょう。

大津留 もとむ
伊丹市議会議員 **おおつる 求**

[電話] 090-8122-7114 [Web] <http://ootsuru.com>

【プロフィール】1971年福岡県大牟田市生まれ。稲野町在住。
■近畿大学法学部法律学科卒 ■国際交流NPOスタッフとして「地球一周の船旅」参加 ■中川智子衆議院議員(現宝塚市長)秘書 ■建設従事者の組合・阪神土建労働組合書記局に入局 ■2015年の市議選に社民党公認で当選。2019年に再選、2期目 ■会派「フォーラム伊丹」 ■稲野自治会副会長 ■防災士

日々雑感

- MLBのオオタニサンから始まる朝。
- 個別・集団・大規模・職域。ドンドン打とう一日百万回、からの供給激減。コロナワクチンに振りまわされる国。
- 楽だけど、なぜか疲れるオンライン。
- 世論がオリ・パラ開催賛否の中で、国民投票法や重要土地調査規制法、後期高齢者患者負担2割等の法律が粛々と国会で成立している恐ろしさ。
- 今更ながら「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」を文庫本で。
- 自治会の夏祭りが、2年連続中止。
- ベトナム反戦運動中に機動隊と衝突して亡くなった18歳の学生は、この国の現状をどう思うだろうか。
- 長編映画「きみが死んだあとで」。
- ♪キヨスクは、駅の中、そんなの有名♪ キヨスクって？ と下の子。
- 格差・貧困・非正規雇用。コロナ禍は、この国の「歪み」を可視化させた。
- バブルとは「泡。泡のように消えやすく不確実なもの」。バブル方式は？